

研究タイトル：

- 北海道水産品の輸出流通調査、および活魚輸送(国内)について
- 発展途上国の橋梁維持管理の実態調査



氏名：	松尾優子 / MATSUO Yuko	E-mail：	
職名：	准教授	学位：	工学博士（北海道大学）
所属学会・協会：	土木学会		
キーワード：	地域振興、社会基盤構造物		
技術相談 提供可能技術：	以下の2つのことが可能です。 ・加速度センサーによる橋梁などの振動測定。 ・小口輸送を対象とした活魚の輸送条件に関するデータ収集(温度、溶存酸素濃度)		

研究内容：

本研究室では、主に以下の2テーマを研究しています。

1. 北海道水産品の輸出調査

北海道は「食」と「観光」を戦略的産業としており、北海道産食品の輸出 1,000 億円を目標としている。これまで、本研究室では、アジア(香港など)を対象に、北海道水産品の輸出促進を目的として、日本食文化の普及や、日本産食材のニーズや調達方法、に関する調査や、試験輸送(マツカワカレイの活輸送)などを行ってきました。

令和2年度からは、対象をアジアからより高級食材としてのニーズが高い北米に移し、米国における北海道水産物の輸出の実態を把握し、北海道水産物の高付加価値化による高級食材としての輸出の可能性を調査するとともに、その経済効果について分析する予定です。



2. 橋梁の振動特性に関する研究

橋梁の老朽化に伴い、効率的な維持管理の手法の一つとして、橋梁の健全度をセンサー等で把握可能な橋梁モニタリングシステムが着目されています。一方、温度変動によりコンクリート、アスファルトなどの材料のヤング係数が変化し、橋梁の振動特性に影響を与えるため、年間を通じた振動特性の把握が重要です。

そこで、本研究室では実橋梁において加速度センサーを取付け、定期的に振動実験を行い、固有周波数、クラック幅の変化に着目し、気温変化が橋梁の振動特性に及ぼす影響を調べています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
溶存酸素ロガー(HOBO U26)	
水中用温度計測データロガー(テイドビット V2)	
二次元造波水路	